

剣母

—ツルギノハハー—

後編



さあ、アデレ殿
ここにそのいきり立った
イチモツを
ぶちこんでくだされ♡

自慰するよりも
こちらの方が
剣を磨けますぞ♡

く
ぽあ..

いいのかしら...
それって...

私たちで
セックスするって
ことになるけど...

ピキ...
ピキ...



もちろんでござる
我々の剣に目合ひの
気持ちよさを
教え込まねば♡

それがし
某も久しぶりでしてな…

いや…私も
さすがにペニスで
セックスするのは
初めてなんだけど…



それにしても
女同士に
抵抗がないとは…

アマゾネスの
方々はやはり…



べ、別に
いいでしょ
そんなの…

いくわよ



い、入れて
いいのね？

ええ…
遠慮なさらず
ずつぷりと…





これが
ペニスを入れた
感触…♡

す、すごい…

すち、

すち、



ああ…
久々の感触っ

お互い快感を
貪り合うのは
たまりませぬな♡

すち、
すち、
すち、



突きたくて
突きたくて
仕方なくなっちゃう♡

ズッ
ズッ

オスの気持ちに
目覚めちゃおう♡

ズッ
ズッ

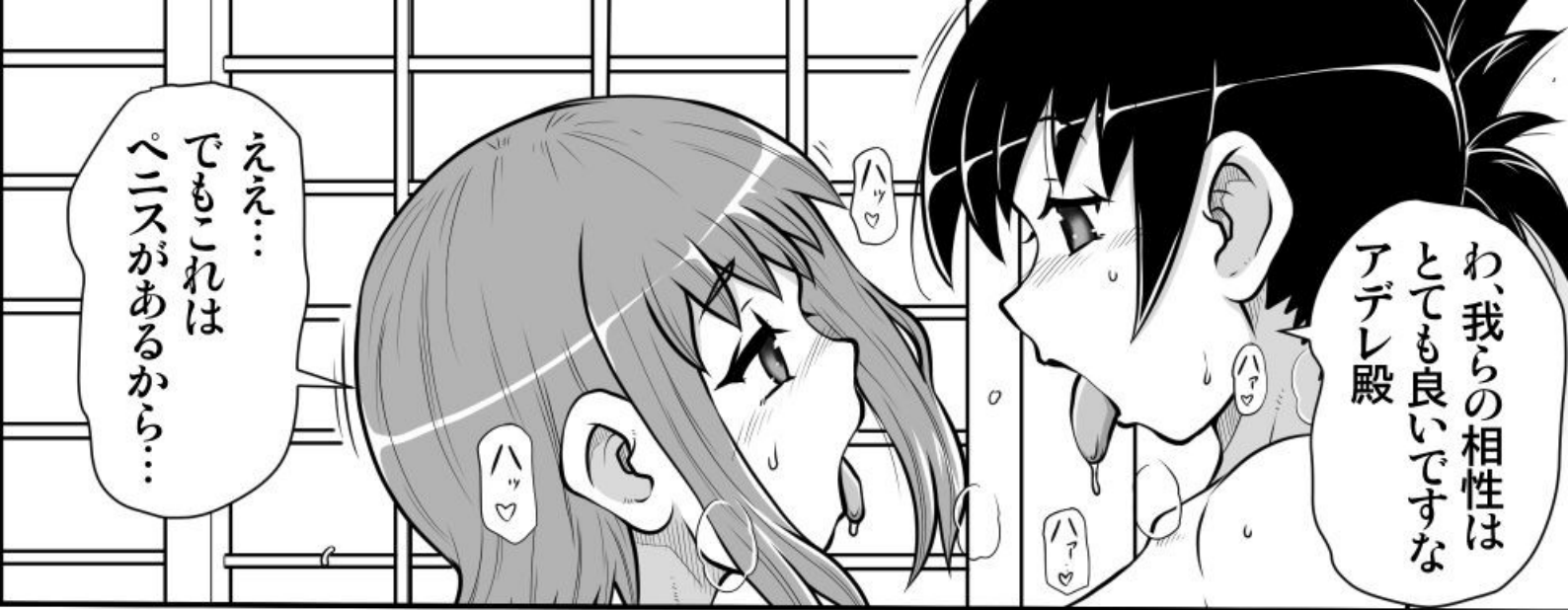


んああっ
力強いっ♡

心も体も全て
委ねてしまおう♡

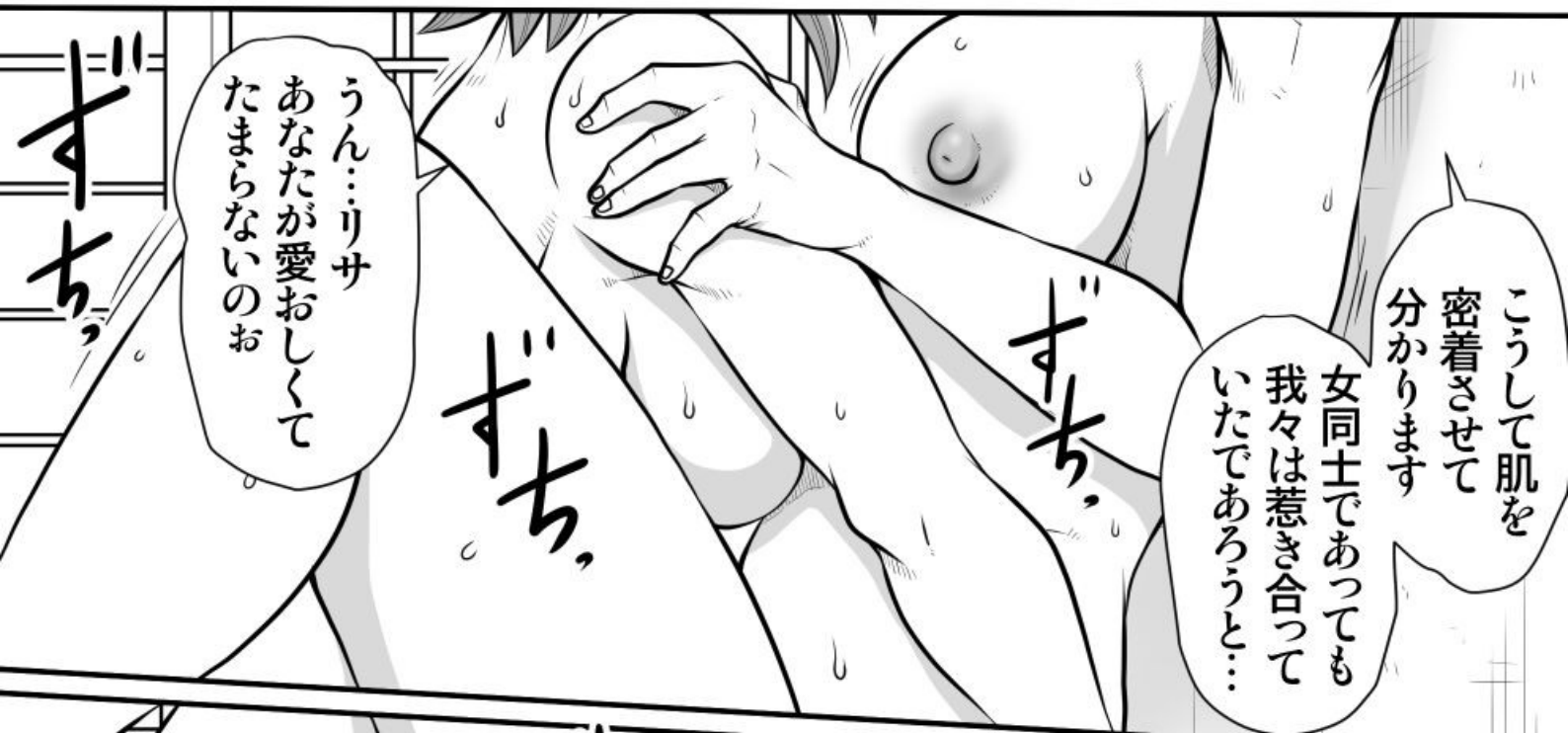
すち、

すち、
すち、



わ、我らの相性は
とても良いですな
アデレ殿

ええ…
でもこれは
ペニスがあるから…



こうして肌を
密着させて
分かります

女同士であつても
我々は惹き合つて
いたであらうと…

うん…リサ
あなたが愛おしくて
たまらないのお

ずち

ずち

ずち



腰が止まらないっ

いつまでも
あなたと
セックスして
いたいわっ♡

ずち

ずち



れろっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡



こっちのアナも
いいわっ♡

私の剣の
経験値がすごく
上がっていきまーす♪

リサにも
私のアナルを
捧げるわね♡

ザリゅ、
ザリゅ、

おお…
かたじけない♡
また尻穴を
味わえるとは♡



リサのオツパイも
素敵ね…♡
レズ心が
疼いちやうわ♡

いやはや…
照れますな…

れろ…
れろ

ぜひ
アデレ殿のも
賞味させて
ください♡

むっ



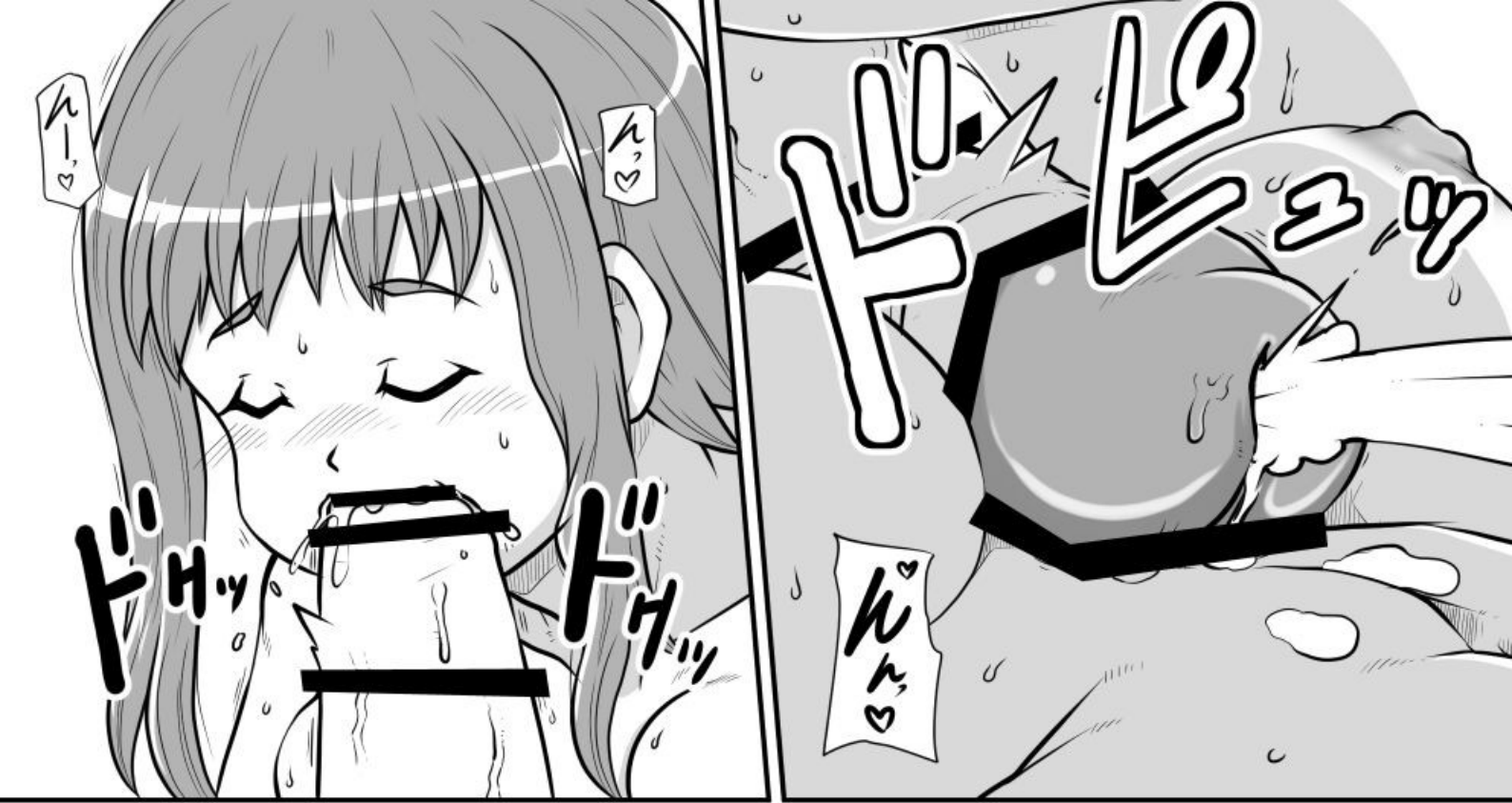
アデレ殿の
蜜がこんなに
溢れ出て...

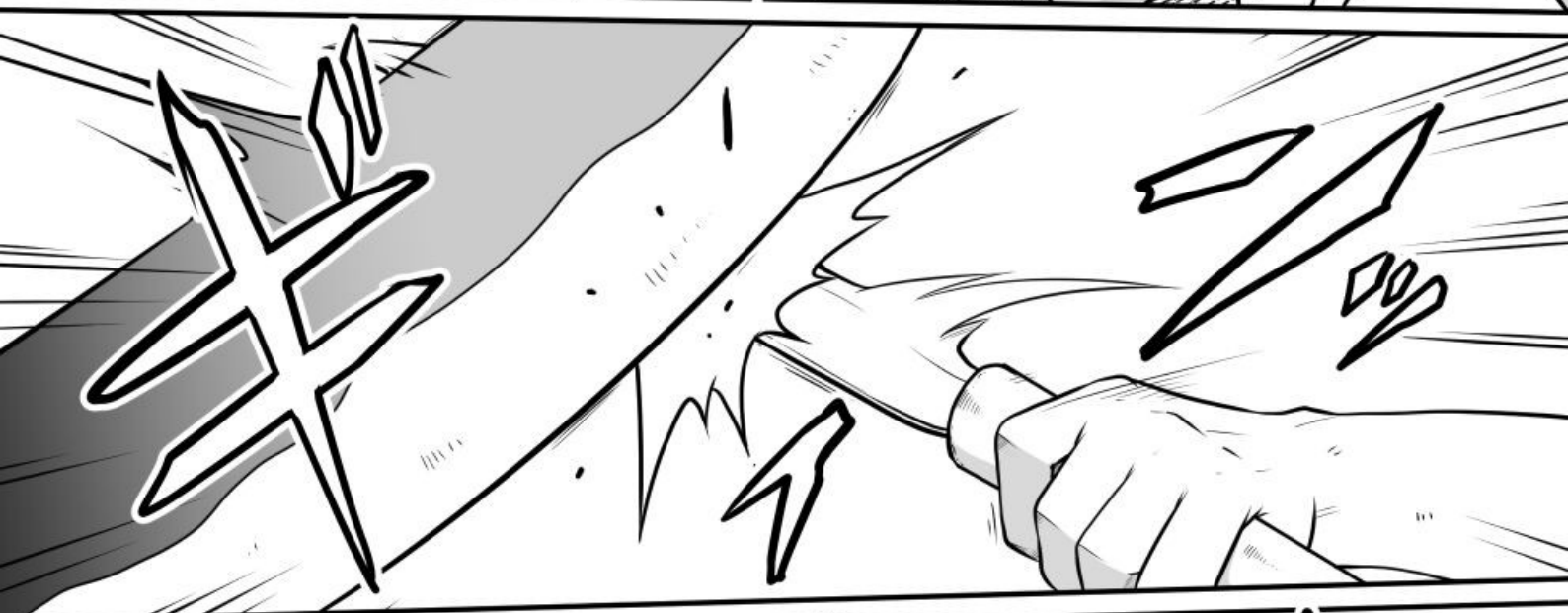


こちらを
撫でるだけで
トロトロと...

れるお

ぬちや...







本当に刺したかと
驚きましたぞ

我が「空玄流」の
筋も理解
されておられる

ギヤレス殿が
一目置かれる
わけだ…

それは
リサもでしょ

ふふ…そう？



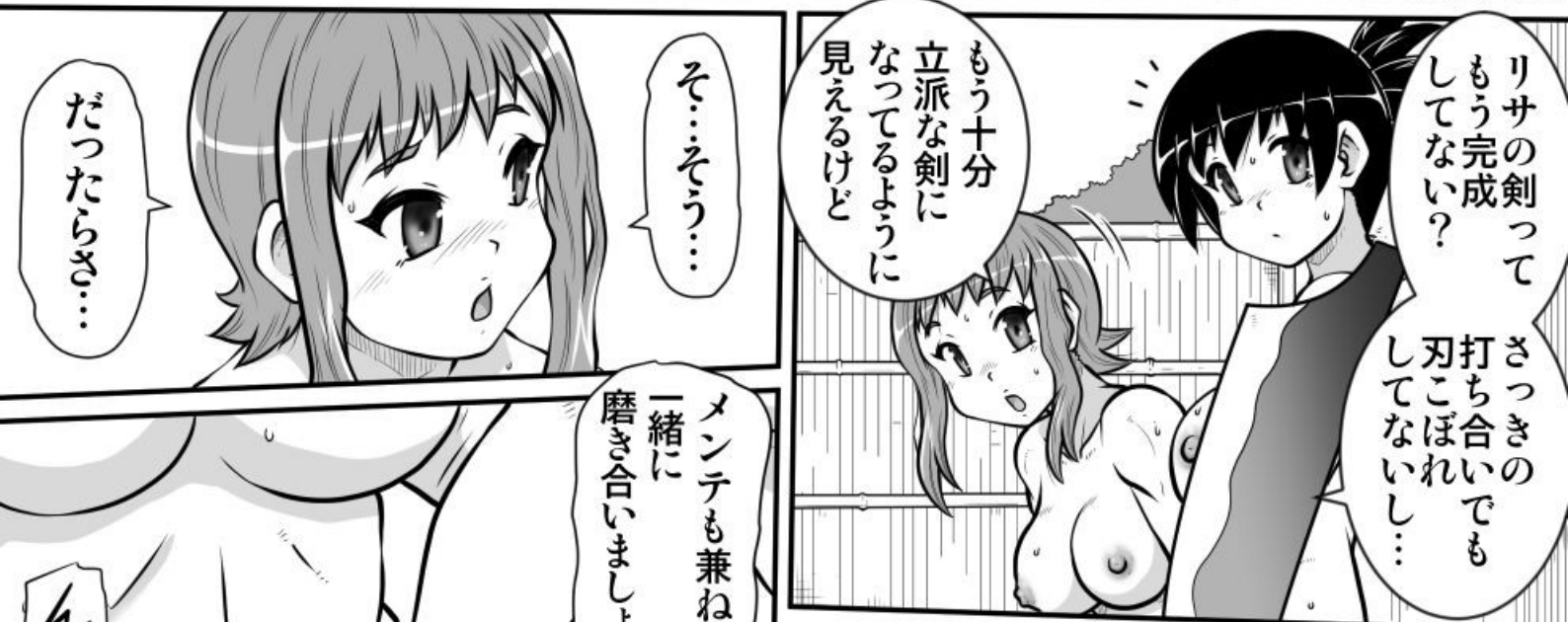
リサの剣って
もう完成
してない？

さっきの
打ち合いでも
刃こぼれ
してないし…

もう十分
立派な剣に
なってるように
見えるけど

そ…そう…

だったらさ…



メンテも兼ねて
一緒に
磨き合いましょ

ふむ…
もうあと一歩…
でござるかな

この子が
まだ求めて
いるのが
分かりますでな

なで

なで



んっ♡

あっ♡



ふふ…打ち合いの
興奮が冷めぬまま
イチモツを扱き合う…

なかなか
オツなもの
ですな♡

そ、そうね
リサ♡

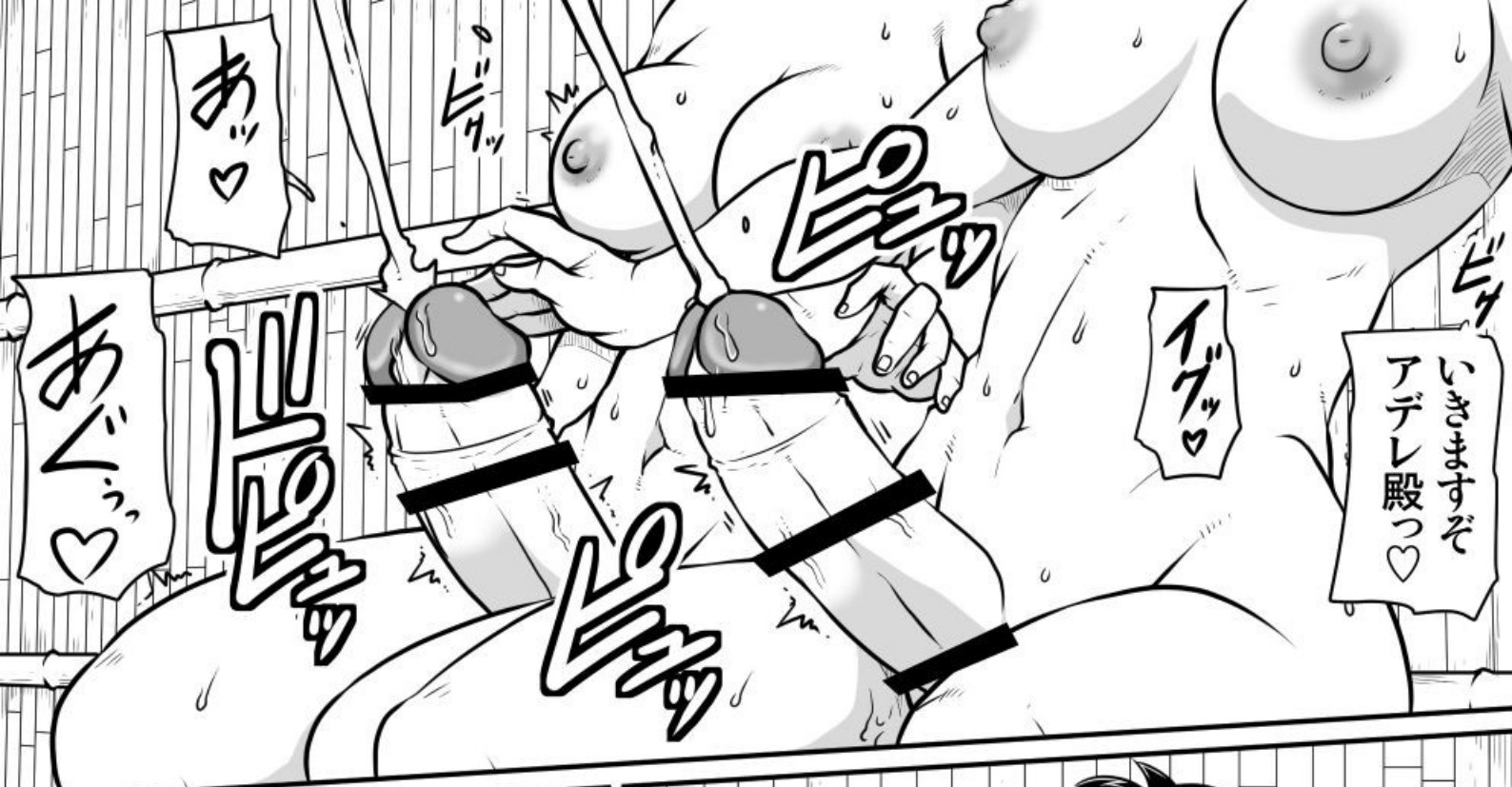
あなたの大剣を
思い出しながら
シゴくの
たまらないわ♡

見せてください
アデレ殿の
射精を…♡

ええ…
あなたのも
見せて♡

一緒に射精の
見せ合いっこ
しましょ♡







そうすれば
二人で
切磋琢磨も
できましよう

ゆくゆくは
「剣聖」となり
我らの名も
高まるというもの



だったら
今後のためにも

お互いのこと
もつと
理解しましょ…♡



まあ、完全
攻撃特化の
組になります

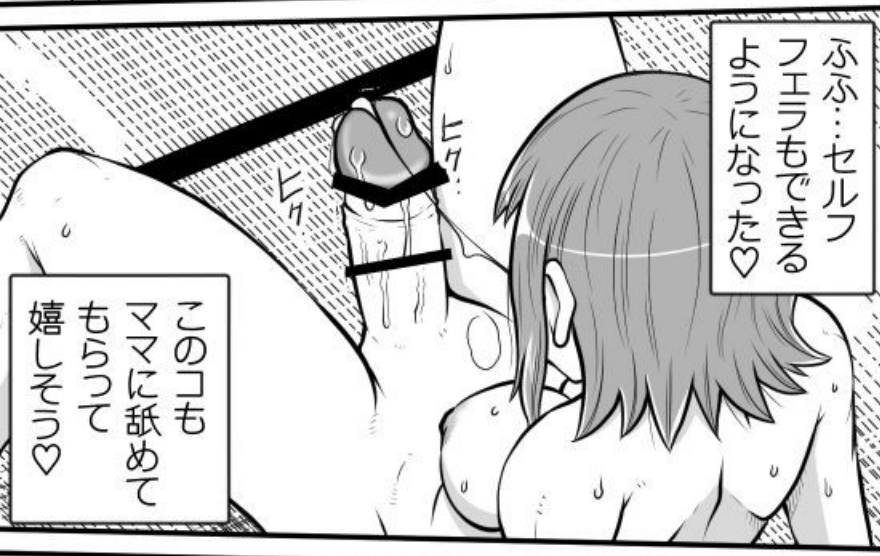
いいじゃない
攻撃は最大の
防御とも言うしね



ともあれ
今後も二人
一緒というのは

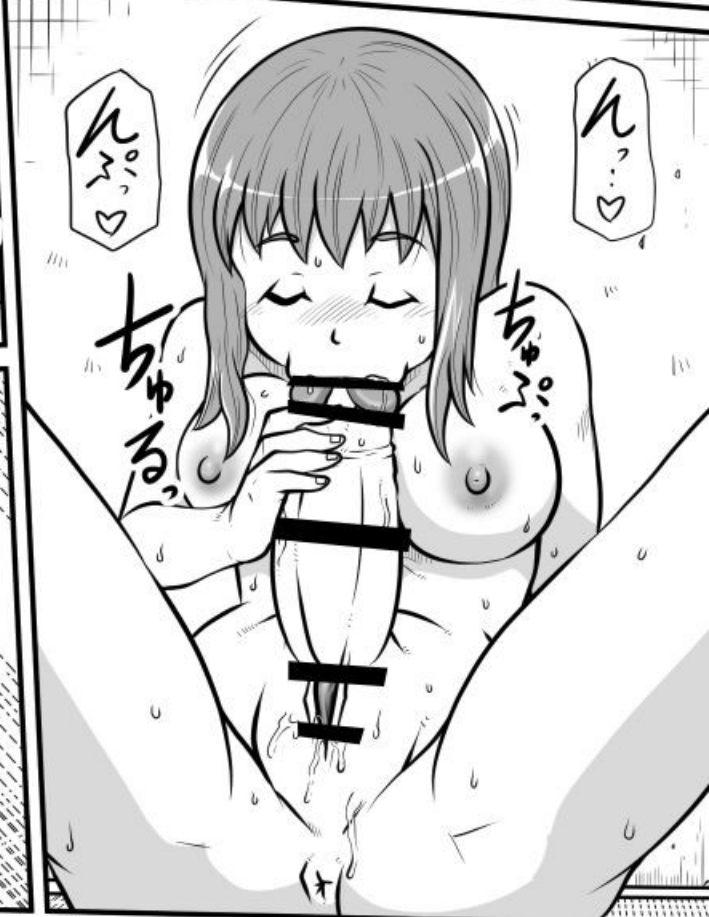
魅力的な
話ですな

決まりね



ふふ…セルフ
フェエもできる
ようになった♡

この「も
ママに舐めて
もらって
嬉しそう♡



セルフファック
のような感覚も
楽しめちゃうのよね…♡



この「半転化」
状態を
知ってから



我が子に犯される
ような背徳感も
たまらないっ♡



剣に
イカされるっ♡



ああ…
いいわ…♡

自分のチンポで
自分を責める
感じ…

分離しても
感覚があるから

好きなように
自分を
責められる♡



私自身の快感と
剣からやってくる
快感が味わえる…

剣が絶頂に
悦んでいるみたい…



ああ…
分かるわ…

剣の能力が
さらに
上がっていくのを…



あッ♡

あッ♡

あほ♡

ビュッ

ズルズル



いっ♡ね
いっ♡ね

もっともっと
立派に
してあげたいっ

れろ

れろ

最高の剣に
仕上げて
あげたいわっ



私の全てを
剣に捧げれば...

私たちは
一つに...



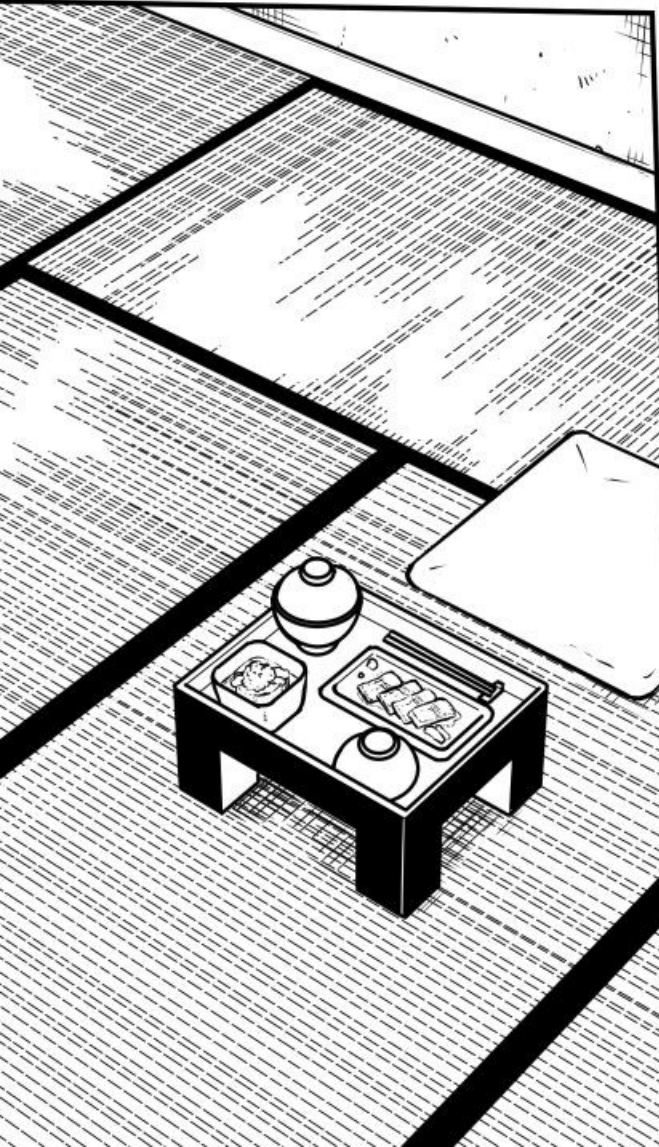
この白刃のまま
私のオマンコに
ぶちこみたい...

ああ...



剣に命を
捧げるなんて
馬鹿げてる

！ いやいや
何言ってるの？



日に日に
剣への執着が
ひどくなる
みたい...

そろそろ
区切りをつけ
ないと...



あんな大きな
剣だものね

そろそろ
完成が
近いのかしら



あら？今日は
私の分だけ？

リサったら
まだ
シゴいてるの？

カチャ...



いえ...

リサ様の
剣は完成
いたしました



ご自身に
剣を突き立てて
命を捧げたのです

そして剣は
妖刀となり
完成されました

は……？

……

凄惨な
最後でした

あの方の
能力なればこそ
なのでしょう

あの大剣を秘部に
挿入して自らの身体を
鞘のように見立てて
貫かれていました

剣は母の命と魂を吸い
妖刀となったのです

我が子の完成に至り、
完全なる絶頂を味わい、
リサ様は恍惚の表情で
亡くなられました



ウソよっ
リサが
そんな…



私たちは常に
より優れた剣を
求めているのです

剣の成長を
あなた方に委ね

私たちの勤めは
よりよい環境を
提供し、成長を
見守ること…

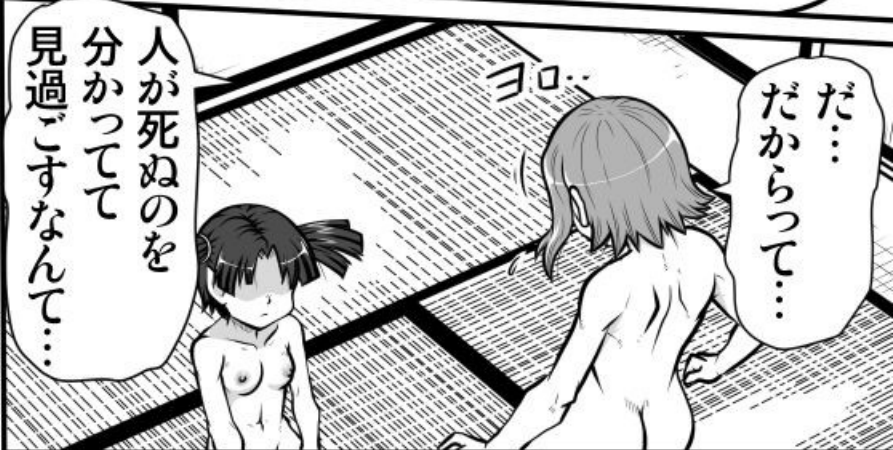
剣母が死に
至ろうとも
剣が完成することが
私たちの望み



だ…
だからって…

人が死ぬのを
分かってて
見過ごすなんて…

あれはただの上
辺だったって
こと…？



命を捧げて
妖刀になることは
リサ様も承知

リサ様も滞在中も
何人かこうして
見送りしました

つまりリサ様が
望まれた
結果なのです

ドサ..



一緒になることを
喜んでくれた笑顔は…





ああああ

うあ...

ワ+
ワ+

私よりも
剣を選んで...

ウソよ
そんな...



ガハ...

ガハ

あなたとの
約束を破って
しまった...

本当に...
ごめんなさ...い...



けれど...

リサ様が
剣を選んだのは
事実...



某の心が
弱いばかりに...

ガハ...

...すまぬ
アデし殿...

リサ様の
アデレ様への想いは
とても強かった…

けれど母性と
快感に抗うことは
難しい

ほとんどの方が
剣に命を捧げる

リサ様を
失った今…

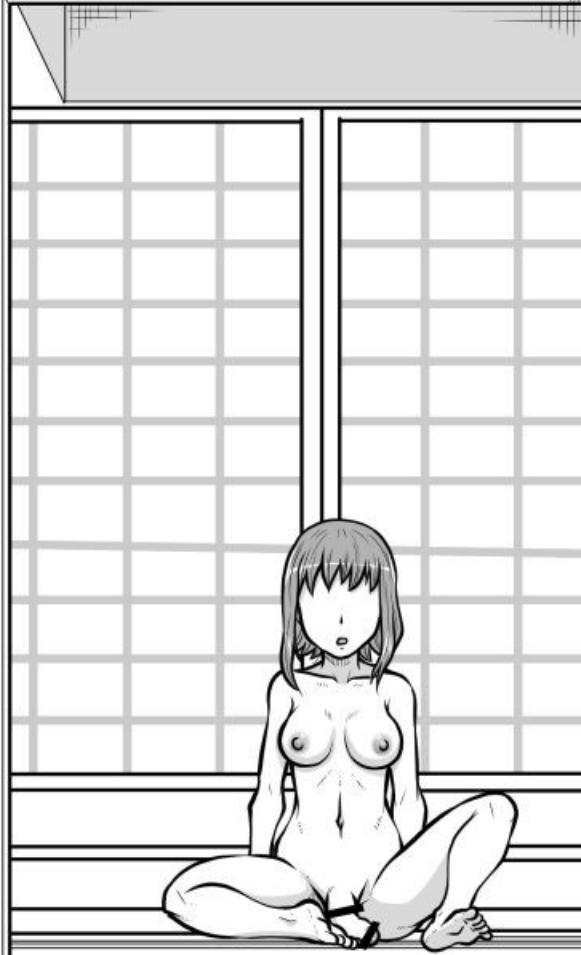
きつとあなたも
剣に命を
捧げることでしょう



…リサが
いなくなつて…

こんなにも
ぽっかりと心に
穴が空いてしまった…

もはや
空しさしか
感じないわ…



だつたら私も：
心の赴くままに
剣に全てを捧げて…

リサの後を
追うのも
いいのかもしれない…

彼女が
隣に居ることが
私の望み…





…そうか…

リサ…今
分かったわ

私の
歩むべき道を…

…なんだと？

ここから
出たいとな？

その上リサの
剣も欲しいとは…

お前の短剣は
完成したのか？

いいえ…

都合のいい
話なのはいい
分かってる

あなたと初めて
対決したときのように

あなたに
キズ一つでもつける
ことができなければ
命を捧げて剣を
完成させるわ

キキ..

だが、そなたと
リサの関係に
免じて機会を
与えよう

それでも
こちらには
割に合わぬ話…

ズ



千キ...

!

とあ、うひひも...



...なんだ?

...



この違和感
...

すでに幻術を
受けている...?



!!!

滞在中に
幻術の精度を
上げたな

一見異変は
ないようだが…

感覚が警鐘を
鳴らしている

幻の刃に
殺気をのせて…

幻術で
「空ろ流」の
真似事か？



いやこれは
幻術だけでは
意味がない

滞在中
あの二人は
共に剣術を
磨いてきた

その過程で
アデレは「空を流」を
会得していると
考えていいだろう



幻術の合間に
本物の刃を
織り交せて
いるはず

だが
その見極めは
今の私では
難しいな:



ならば



一気に
間合いを詰めて



幻術の刃を
出す隙を
なくせばよい
だけのこと



小石に剣を
紛らわせたか

小狡い
マネを...

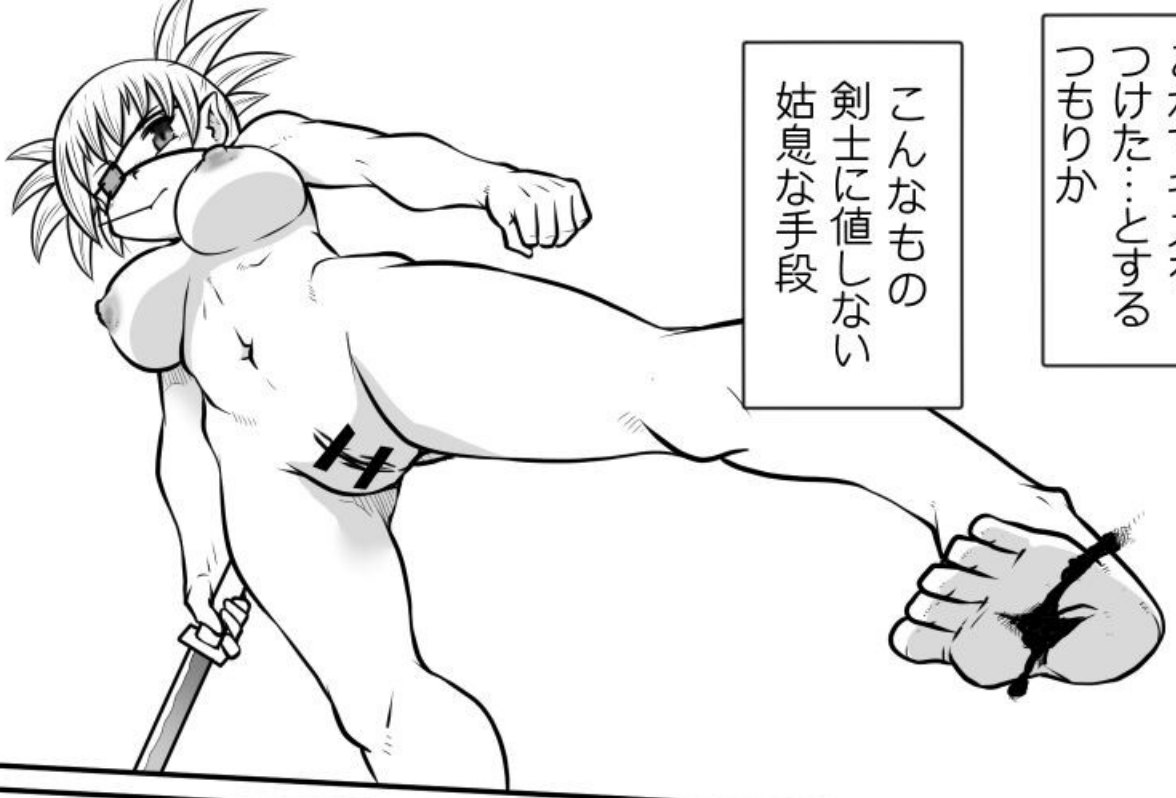


む...!

これでキズを
つけた…とする
つもりか

こんなもの
剣士に値しない
姑息な手段

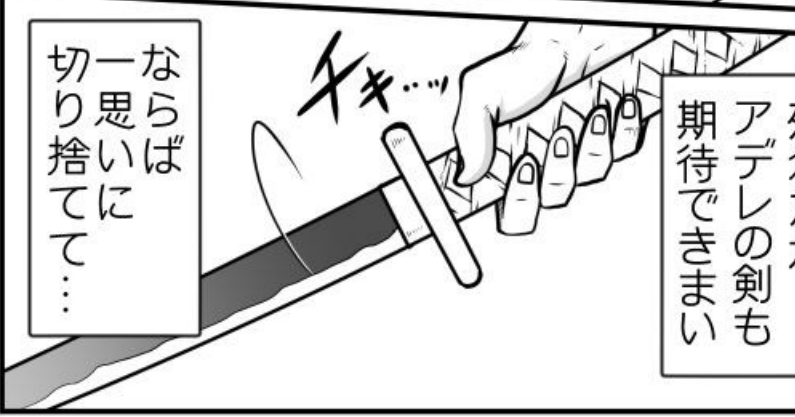
私の剣を
渡すには
器が足らぬな



残念だが
アデレの剣も
期待できまい

ならば
一思いに
切り捨てて…

キキ…



いや…幻術に
「空を流」を
重ねるとは…

さらにリサを超えて
刃圏外にまで
「空を流」の刃を
延長してきた



恐るべき
成長だ…



：アデレの魔力に
あてられて剣も
魔剣へと
成長している

このままいけば
妖刀に匹敵する
剣に至る
可能性があるな

リサへの想いが
アデレを開花
させたか

人間も
どういうきつかけで
化けるか
わからぬものだ

ドッ

己の今の強さを
知った上での
苦肉の策…か

こやつ
の行く末…

自由にさせて
さらに化けるか
はたまた墮ちるか





私からすれば
リサは自ら
命を絶った

心が脆弱ゆえ
快樂と母性に
抗えなかったからだ



だがお前にとって
私のことをリサの
敵だと思っているのだな

その殺気が
成長の糧と
なるならば

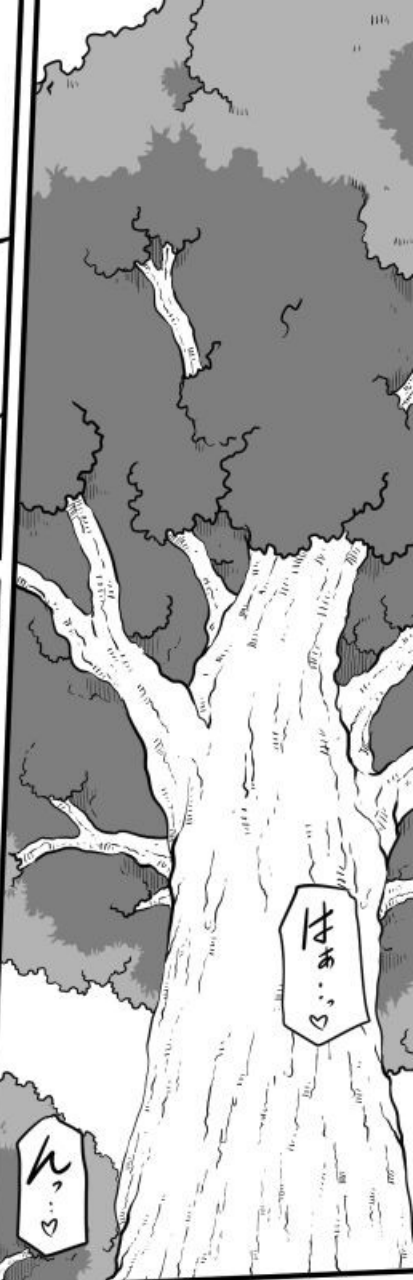
存分に活かし
私に挑むと
いいだろう…



…いいだろう

お前のこの先を
見たくなった

リサの剣は
くれてやる





リーサ♡

ドドド

ゴゴゴ

こーんなに
セーエキ
出しちゃって
ふふ...

タパッ



私のおちんちんと
擦り合わせて
気持ちよかったのね？

タパッ

私たち一緒なら
もつともつと
強くなれる

あなたも私の剣も
こつして毎日
磨いてあげる♡



こつして精液を
啜っている
とつても力が漲るもの

…そしていつの日か
私からあなたの
愛おしい身体を奪った

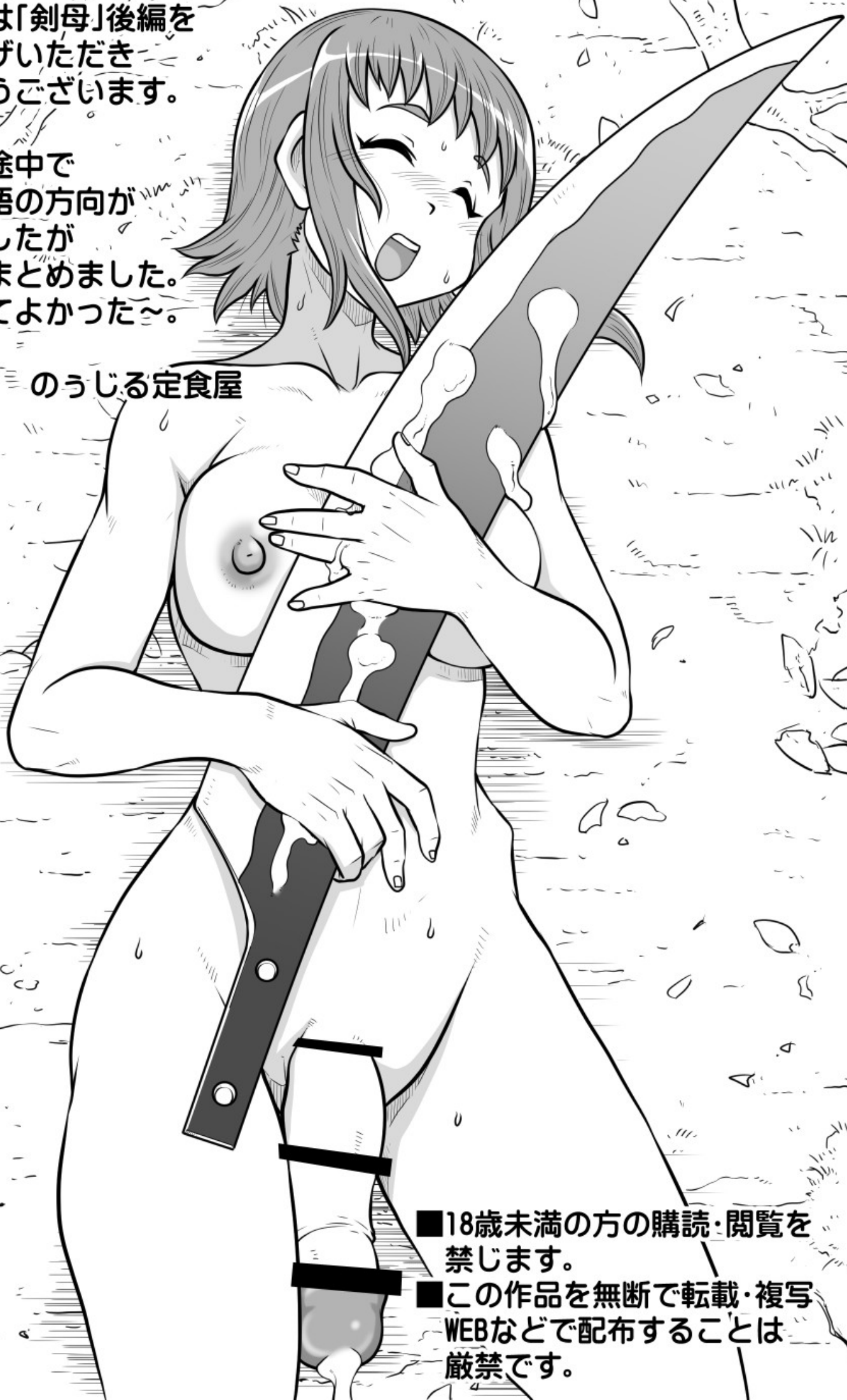


ギヤレスを
討ち取って
やるわ…！

このたびは「剣母」後編を
お買い上げいただき
ありがとうございます。

描いてる途中で
何度も物語の方向が
変わりましたが
なんとかまとめました。
描ききれてよかった～。

2024年5月 のうじる定食屋



■18歳未満の方の購読・閲覧を
禁じます。
■この作品を無断で転載・複写
WEBなどで配布することは
厳禁です。